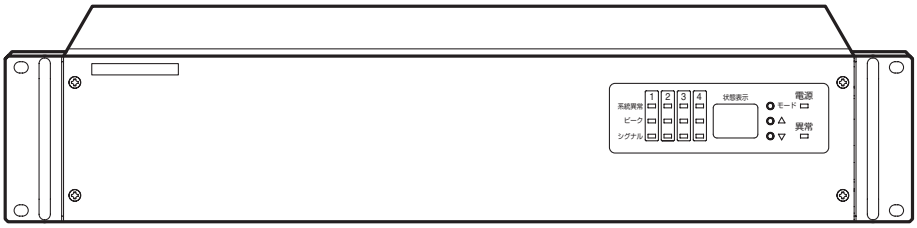
Victor

"HIS MASTER'S VOICE"

デジタルパワーアンプ

型名 EM-A822D
EM-A842D

取扱設置説明書



<EM−A842D>

お買い上げありがとうございます。
ご使用の前にこの「取扱設置説明書」と別冊の「安全上のご注意」をお読みのうえ、正しくお使いください。
特に「安全上のご注意」は必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときお読みください。
製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は本機に製造番号が正しく記されているか、またその製造番号と保証書に記載されている製造番号が一致しているかお確かめください。

LST0625-001B

特長

省電力、省スペース

高効率デジタルアンプとスイッチング電源の組み合わせにより、省電力（同一出力で消費電力が当社従来比最大 1/2）と省スペース（当社従来比最大 1/6）* を実現しています。

* 当社 80W アンプ 4 台と比較

出力トランス方式ハイインピーダンス仕様のマルチチャンネルパワーアンプ

出力トランス内蔵ハイインピーダンス仕様のマルチチャンネルパワーアンプです。マルチチャンネルを並列運転することにより、スピーカーラインの負荷容量を増やすことができます。

動作状態の監視と表示

動作の異常を検出し、異常を表示します。表示することにより、故障や事故を未然に防ぐことができます。

また、動作履歴を最大 100 件まで記憶します。

この取扱説明書の見かた

■ 本文中の記号の見かた

ご注意　：操作上の注意が書かれています。

メモ　：機能や使用上の制限など、参考になる内容が書かれています。

☞　：参考ページや参照項目を示しています。

■ 本書記載内容について

- 本書の著作権は弊社に帰属します。本書の一部、または全部を弊社に無断で転載、複製などを行うことは禁じられています。
- 本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標、または登録商標です。本書では ™、®、© などのマークは省略してあります。
- 本書に記載されたデザイン、仕様、その他の内容については、改善のため予告なく変更することがあります。

もくじ

はじめに

特長 2
もくじ 3
安全上のご注意 3
正しくお使いいただくためのご注意 4
各部の名称とはたらき 5
前面 5
背面 6
ラックに取り付ける 7

接続について

コネクター端子台の接続 8
並列運転の接続 9
非常用放送設備 EM-900 シリーズとの接続 9
AV コミュニケーションシステム AV-7100、
またはデスク型音響装置 PAC-5200B/6200B/
7200B との接続 10
業務用放送設備 EM-D300 シリーズとの接続 10

その他

異常表示について 11
EM-D300 シリーズに接続したときの
異常表示について 12
履歴を確認する 13
EM-D300 シリーズに接続したときの履歴確認 14
保証とアフターサービス 14
仕様 15

安全上のご注意

⚠ 警告

設置／接続作業は販売店などに依頼する

設置／接続作業は、販売店または専門業者にご依頼ください。

ファンモーターを無理に停止させない

本機内蔵のファンモーターを無理に停止させると、機器内部に熱がこもり、火災ややけど、故障の原因となります。

付属の電源コードを使用する

本機には、必ず付属の電源コードを使用してください。付属の電源コード以外を使用すると、火災や感電の原因となります。

スピーカー出力端子には、端子カバーを取り付ける

スピーカー出力端子 (CN-A1) にスピーカーコードを接続したあとは、必ず端子カバーを取り付けてください。端子カバーを取り付けない場合、感電の原因となります。

正しくお使いいただくためのご注意

保管および使用場所

● 次のような場所に置かない

誤動作や故障の原因となります。

- 許容動作温度（5 ℃～ 35 ℃ ）範囲外の暑いところや寒いところ
- 許容動作湿度（20 %RH ～ 80 %RH）範囲外の湿気の多いところ
- 変圧器やモーターなど強い磁気を発生するところ
- トランシーバーや携帯電話など電波を発生する機器の近く
- ほこりや砂の多いところ
- 振動の激しいところ
- 窓ぎわなど水滴の発生しやすいところ
- 厨房など蒸気や油分の多いところ
- 放射線や X 線、および腐食性ガスの発生するところ

取り扱いについて

● 本機の放熱が不十分になると故障の原因となります。本機周辺の通風を妨げないようにしてください。

● 本機の上に水の入ったもの（花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など）を置かない

機器の内部に水が入ると、火災や感電の原因となります。

● 内部に物を入れない

通風孔などから、金属類や燃えやすいものなどを入れると火災や感電の原因となります。

● 他機との接続には、技術を必要とする場合があります。接続を誤ると、感電や火災の原因となることがあります。必ずお買い上げ販売店にご依頼ください。

● 電力線と入力信号線はできるだけ離して接続する

電源コードやスピーカー線などの電力線と制御ケーブルなどの入力信号線を近づけると、機器の動作が不安定になり、動作不良の原因となります。

● 通風孔をふさがない

本機の内部温度が 35 ℃ 以上になると、内蔵ファンが回転します。
ファン取り付け部の通風孔と右側面の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと、内部に熱がこもり火災や故障の原因となります。

接続について

● スピーカー出力端子への接続は、電源を切ってから行なってください。本機のスピーカー出力端子には、無信号時も電圧が出力されています。

移動について

● 移動するときは接続コード類を外す

移動するときは、電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

お手入れについて

● お手入れは、電源プラグを抜いてから行なってください。

● 本機は柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジンでふくと、表面がとけたり、くもったりします。汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤を布につけてふき、あとでからぶきしてください。

省エネについて

● 長時間使用しないときは、安全および節電のため、電源プラグをコンセントから抜いてください。

その他

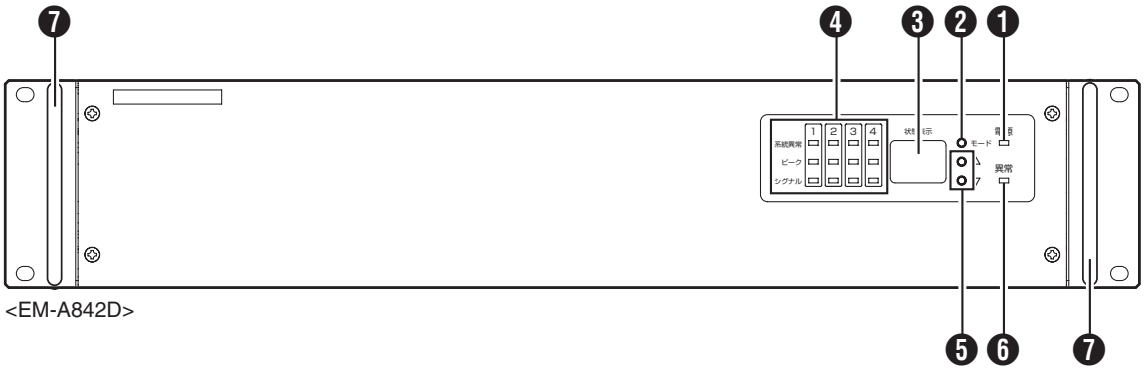
● 落雷などにより電源電圧が変動した場合、システム保護のため電源電圧が安定するまで操作できないことがあります。

● 本機および本機に接続したケーブルが強い電波や磁気の発生するところ（例、ラジオ、テレビ、変圧器、モニターなどの近く）で使用された場合、画像にノイズが入ったり、色彩が変わることがあります。

● 本機に付属のコードを他の機器で使用しないでください。

各部の名称とはたらき

前面



<EM-A842D>

❶ [電源] 電源表示灯

電源が入っているとき、緑色に点灯します。

❷ [モード] モード切り換えボタン

❸ 状態表示灯の表示内容を切り換えます。(☞ 13 ページ)

❸ [状態表示] 状態表示灯（緑、2 桁の文字表示）

- 異常検出時、異常の種類を示す異常コードを表示します。(☞ 11 ページ)
- 過去の動作履歴、および設定アドレスと内部のソフトウェア情報を表示します。(☞ 13 ページ)
- 通常は消灯しています。

❹ [系統異常、ピーク、シグナル] 系統別表示灯（EM-A822D は 1 ～ 2、EM-A842D は 1 ～ 4）

● 系統異常表示灯

異常を検出した系統（チャンネル）の表示灯が橙色に点灯します。

● ピーク表示灯、シグナル表示灯

各系統の入力信号レベルを表示します。

- ピーク　：定格 +3 dB 以上で赤色に点灯
- シグナル：定格 –30 dB 以上で緑色に点灯

また、出力ミューティング時も表示します。

メモ：

- ピーク表示灯が点灯する入力レベルの場合は、音が歪んでいます。点灯しないレベルまで下げてください。

❺ [▲/▼]▲/▼ ボタン

❷ モード切り換えボタンで、❸ 状態表示灯に動作履歴を表示させた場合、▲/▼ ボタンで履歴番号を切り換えます。▲ で履歴番号が進み、▼ で履歴番号が戻ります。
(☞ 13 ページ)

❻ [異常] 異常表示灯

動作中に異常を検出したとき、赤色に点灯します。

❼ ハンドル

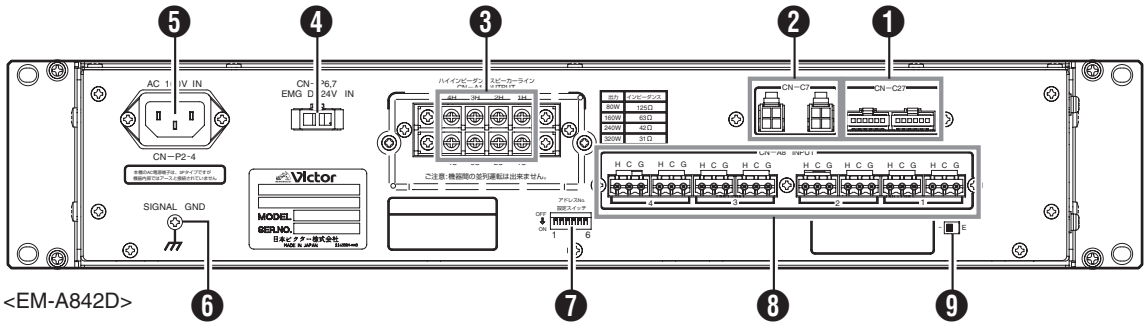
本機をラックに入れる、またはラックから取り出すときに使います。

ご注意：

- ハンドルを持って本機を運搬しないでください。落としたりして、けがや故障の原因となります。

各部の名称とはたらき（つづき）

背面



<EM-A842D>

❶ CN-C27

システム制御用コネクターです。業務操作器（EM-D36）の CN-C27 に接続します。デジタルパワーアンプを複数台使用するときは、順送りで接続します。

❷ CN-C7（Molex 4 ピン）

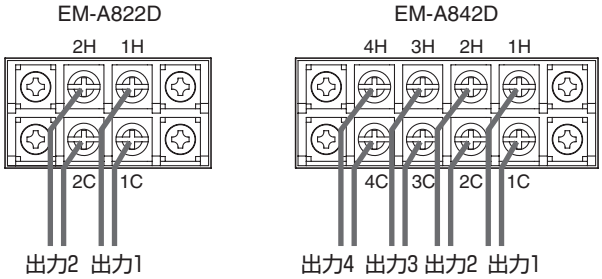
システム制御用コネクターです。主入力制御ユニット（EM-Y92）または業務操作器（EM-D36）の CN-C7 に接続します。パワーアンプを複数台使用するときは、順送りで接続します。

❸ CN-A1（端子台）

パワーアンプの出力です。モニターユニット（EM-S102）、主制御ユニット（EM-L32）、回線制御ユニット（EM-L92）に接続します。

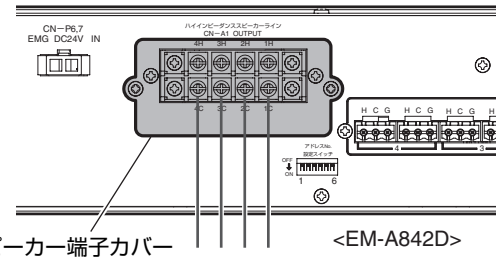
AV-7100、PAC-5200B / 6200B / 7200B は、それぞれの出力端子盤に接続します。

EM-A822D は 4 端子（2×2）、EM-A842D は 8 端子（2×4）です。



ご注意：

- 端子台にケーブルを接続するときは、ケーブルのラグ端子部どうしが接触しないようにしてください。また、接続後はネジに緩みがないことを確認してください。
- 配線後は、CN-A1 にスピーカー端子カバーを取り付けてください。取り付けない場合、感電する恐れがあります。



<EM-A842D>

❹ CN-P6、P7

非常 DC 電源入力です。停電放送を行うシステムと接続します。非常電源（EM-N112）の CN-P6 または CN-P7 に接続します。

❺ CN-P2 ～ 4（AC100 V）

主電源ユニット（EM-P11）の CN-P2 ～ P4（連動）に接続します。

AV-7100、PAC-5200B / 6200B / 7200B は、それぞれの AC アウトレットに接続します。

ご注意：

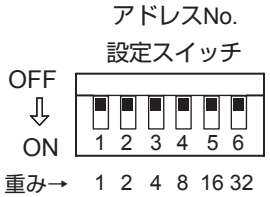
- EM-A842D は消費電力が大きいため、EM-P11 の CN-P2、CN-P3 および CN-P4 へは、それぞれ 1 台ずつ接続してください。
  EM-A822D は、それぞれ 2 台まで接続できます。
- 機器の消費電力によって、付属の電源コードが異なります。必ず機器に付属の電源コードを使用してください。

❻ [SIGNAL GND] 筐体アース

ラックに接続します。

❼ アドレス No. 設定スイッチ

- EM-D300 シリーズ以外のシステムのときは、すべて「0」に設定します。
- EM-D300 シリーズでは、台数に応じて「1」から順につづき番号で設定します。最大値は「30」となります（「31」～「40」はシステムアップ時に使用）。
  この設定は、電源投入時に有効となります。設定後は、必ず電源を入れ直してください。
- 「ON（↓）」にしたスイッチの重みの合計がアドレス番号になります。下表を参考にして設定してください。



	設定スイッチの状態					
アドレス	1	2	3	4	5	6
1	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
2	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF
3	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF
4	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
5	ON	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
6	OFF	ON	ON	OFF	OFF	OFF
7	ON	ON	ON	OFF	OFF	OFF
8	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	OFF
9	ON	OFF	OFF	ON	OFF	OFF
10	OFF	ON	OFF	ON	OFF	OFF
…						
30	OFF	ON	ON	ON	ON	OFF

❽ CN-A8

パワーアンプの入力です。非常業務操作器（EM-E96）や業務操作器（EM-D36）の CN-A8、マトリックスユニット（PA-MX92）の出力、その他の機器のプリアンプ出力、PA OUT などに接続します。

EM-A822D には 4 個（2×2）、EM-A842D には 8 個（2×4）あります。1 つの系統の 2 個は、内部で並列接続されています。

❾ [– / E] アース切り換えスイッチ

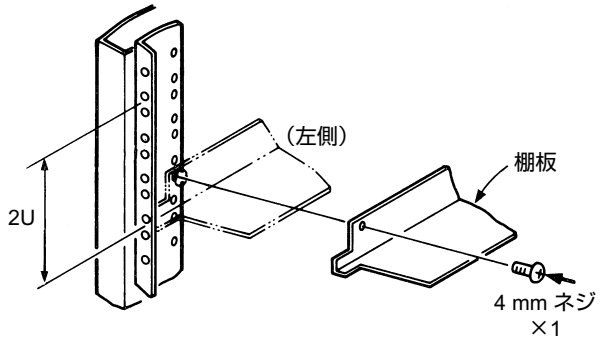
次のことを参考にしてスイッチを設定してください。動作後、雑音が多いときは、雑音の少ない方へ切り換えてください。

- パワーアンプを 1 台のみ使用するときは、「E」側にします。「E」側にすると、回路アースと筐体アースが接続されます。
- 複数のパワーアンプを使用するときは、1 台を「E」側、他を「–」側にし、1 点アースにします。
  雑音が多いときは、何台かを「E」側にすることで雑音が低下することがあります。
- カセットデッキ、CD プレーヤーなどは、信号アースが筐体に接続されていますので、これらの機器を使用するときは、「–」側にして 2 点アースを避けてください。

ラックに取り付ける

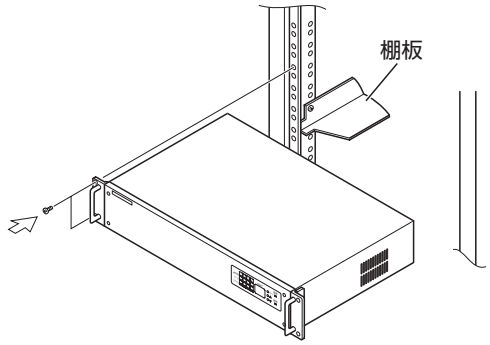
1 ラックに付属の棚板を取り付ける

本機を取り付ける位置に、付属のネジ（M4）2 本で棚板を固定します。



2 本機をラックに取り付ける

本機を棚板の上に載せてから、付属のネジ（M5）4 本でラックに固定します。



メモ：

- 本機は、機器間を空けずに 3 台まで重ねて取り付けることができます。
- 本機とミキサーユニット（EM-M102）の間や、本機とカセットデッキの間などは、誘導雑音を防止するために、ブランクパネル（PA-U1）を使用して 1U 以上離して取り付けてください。
- 本機の発熱による他の機器への影響を少なくするため、本機はラックケースの上部に取り付けてください。
- ラックケース内に取り付けるパワーアンプの定格出力の合計が 700 W 以上のときは、ファンユニットを取り付けてください。
  - 160 W パワーアンプ（EM-A822D）5 台以上のとき
  - 320 W パワーアンプ（EM-A842D）3 台以上のとき

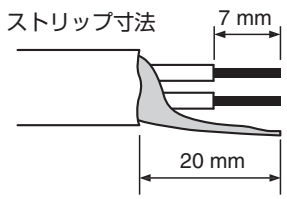
ご注意：

- 本機は前面側が重くなっていますので、不安定な場所に置くと落下する危険性があります。作業を行うときは、本機を安定した場所に置いてください。

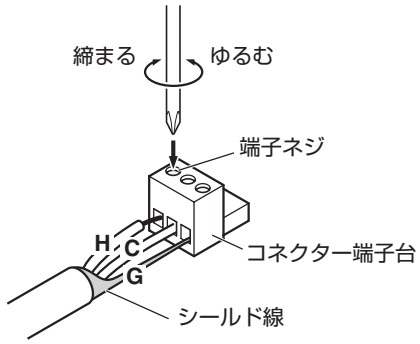
コネクター端子台の接続

（+）No.1 ドライバーを使用します。

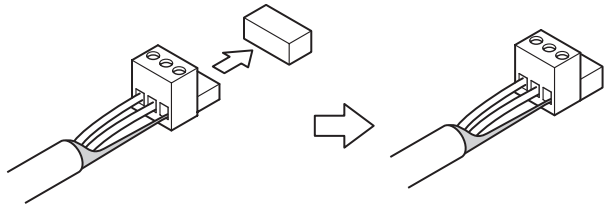
1 シールド線の被覆を下記のように処理する



2 芯線を各挟み込み口に挿入し、押さえネジを締める

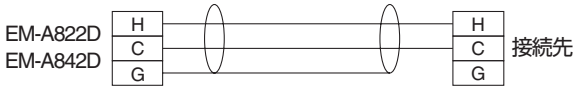


3 コネクター部を、接続する端子台ベースに確実に差し込む



ご注意：

- 接続先のコネクター部には、シールド線（G）を接続しないでください。接続すると GND 電位差によるノイズが発生することがあります。



並列運転の接続

チャンネル間の並列接続による出力ラインの出力容量を下表に示します。

EM-A822Dの場合

2 CH	1 CH
80 W	80 W
160 W	

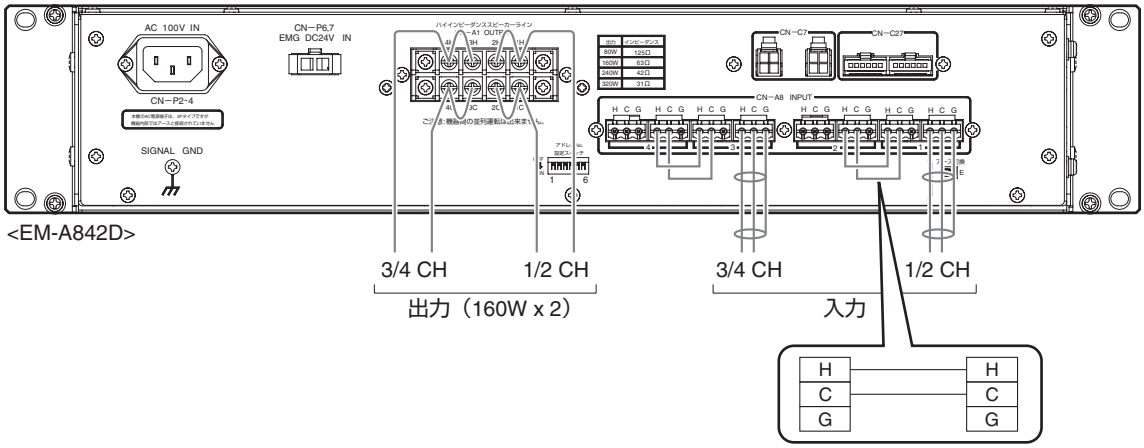
EM-A842Dの場合

4 CH	3 CH	2 CH	1 CH
80 W	80 W	80 W	80 W
80 W	80 W	160 W	
160 W		160 W	
80 W	240 W		
320 W			

接続状態	スピーカー負荷合計	インピーダンス
1 系統使用時（80 W）	80 W 以下	125 Ω 以上
2 系統並列接続時（160 W）	160 W 以下	63 Ω 以上
3 系統並列接続時（240 W）	240 W 以下	42 Ω 以上
4 系統並列接続時（320 W）	320 W 以下	31 Ω 以上

※接続するスピーカー負荷の合計が、上記の値を超えないようにしてください。

■ 160 W×2 並列運転接続例

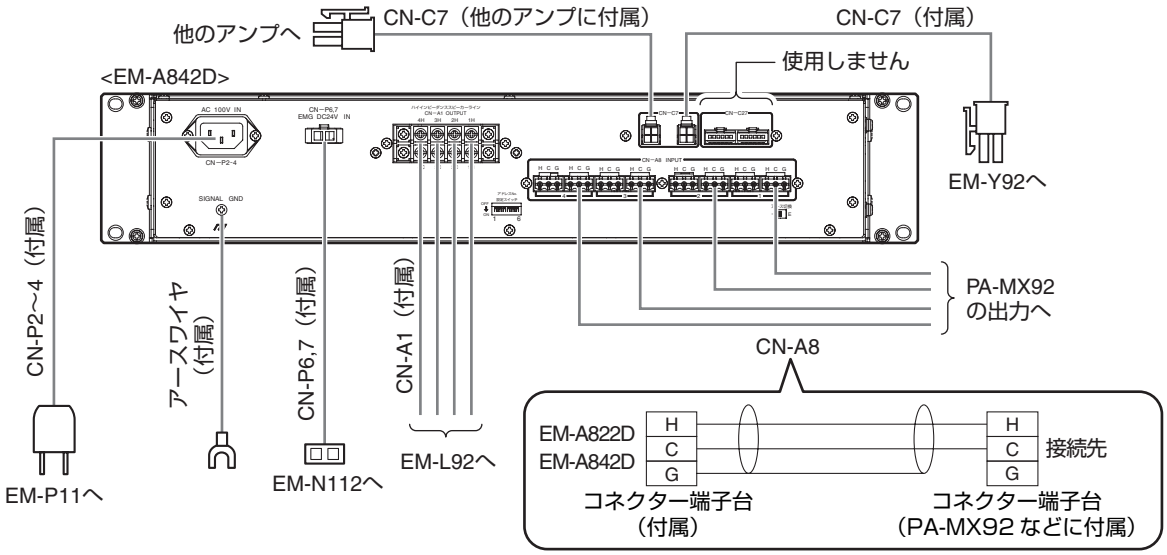


ご注意：

- 並列運転は 1 台の機器内でのみ可能です。別の機器と組み合わせての並列運転はできません。別の機器と組み合わせて並列運転を行うと、故障の原因となりますので絶対に行わないでください。
- 並列運転を行うため出力を並列接続した場合、入力も必ず並列接続を行なってください。また、並列接続したチャンネルの信号位相が逆位相にならないよう、接続確認を十分に行なってください。未接続や誤った接続を行うと、故障の原因となります。
- 接続するシステムで出力回線の分割が可能な場合は、並列接続ではなく、分割接続することをおすすめします。

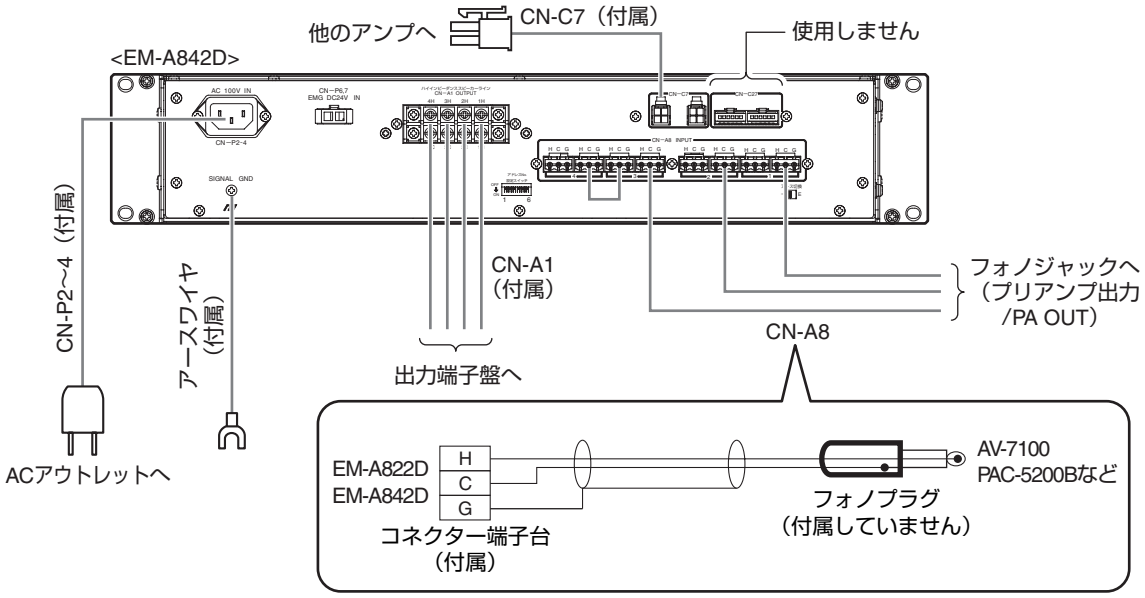
非常用放送設備 EM-900 シリーズとの接続

■ 80 W×4 系統の接続例



AV コミュニケーションシステム AV-7100、またはデスク型音響装置 PAC-5200B/6200B/7200B との接続

■ 80 W×2、160 W×1 の 3 系統の接続例



メモ：

- ケーブル CN-A8 は、ケーブル（2 芯シールド線を推奨）とフォノプラグ（複式）を用意し、作製してください。

業務用放送設備 EM-D300 シリーズとの接続

EM-D300 シリーズ設置説明書の「5-5. パワーアンプの接続」をご覧ください。

異常表示について

本機は異常を検出すると、前面の状態表示灯に異常コードを表示します。同時に異常表示灯、系統別異常表示灯を点灯します。下表の対処方法をご覧になり、異常の原因を取り除いてください。

対処しても異常が表示される場合は、直ちに使用を中止して、お買い上げの販売店または最寄りのビクターサービス窓口にご相談ください。

■ 異常コードと関連動作

異常コード	異常表示灯動作	系統別異常表示灯動作	内容（原因）	対処方法
□1	点灯	点灯	過大電流を検出した。（出力短絡、過負荷）	接続を確認し、短絡または過負荷を解除してください。
□2	点灯	点灯	誤接続などにより、出力レベルが異常になった。	接続を確認してください。
□3	点灯	点灯	超高音信号入力（15 kHz 以上）が連続的にあった。	入力を確認してください。（発振の場合もあります。）
□4	点灯	点灯	過大入力（定格 +3 dB 以上）が連続的にあった。	入力レベルを下げてください。
05	点灯	消灯	温度保護回路の動作などにより、内部 DC 電源（1、2 系統）の電圧が低下した。	電源（AC 100 V、DC 24 V）、入力、負荷、通風孔を確認し、電源を 1 分以上切ったあと入れ直してください。
06	点灯	消灯	温度保護回路の動作などにより、内部 DC 電源（3、4 系統）の電圧が低下した。（EM-A822D にはありません。）	電源（AC 100 V、DC 24 V）、入力、負荷、通風孔を確認し、電源を 1 分以上切ったあと入れ直してください。
□7	点灯	点灯	電力増幅 IC が何らかの異常で停止した。	入力、負荷、通風孔を確認し、電源を 1 分以上切ったあと入れ直してください。
□a	点灯	点灯	過大入力または過負荷などにより、電力増幅 IC が 155 °C 以上になり、自動的に停止した。	入力、負荷、通風孔を確認し、電源を 1 分以上切ったあと入れ直してください。
□b	点滅	点灯	過大入力または過負荷などにより、電力増幅 IC が 125 °C 以上になった。	入力、負荷、通風孔を確認してください。
0d	点滅	消灯	内部が高温（35 °C 以上）になってもファンが停止している。	電源を入れ直してください。
0F	点灯	消灯	アドレススイッチが 0 ～ 40 以外に設定されている。	正しく設定し、電源を入れ直してください。

メモ：

- 異常検出時は、Er（エラーマーク）と異常コードを交互に 4 回表示し、約 6 秒間消灯します。その後、異常が解消されるまで表示を繰り返します。

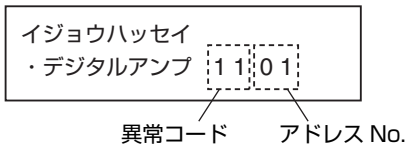
  Er ⇒ □□（異常コード）⇒ Er ⇒ □□ ⇒ Er ⇒ □□ ⇒ Er ⇒ □□ ⇒ 消灯

- 異常コードの左の桁「□」は、異常が発生した系統番号（EM-A822D は 1 ～ 2、EM-A842D は 1 ～ 4）が表示されます。
- 異常表示灯点灯中は、全系統の出力がミューティングされます。また、CN-C7 接続にてパワーアンプを複数台使用しているときは、他のパワーアンプも異常表示灯が点灯し、出力がミューティングされます。

EM-D300 シリーズに接続したときの異常表示について

EM-D300 シリーズに接続して使用した場合、パワーアンプが異常を検出すると EM-D36（業務操作器）に異常情報を送信します。EM-D36 は情報を受け取ると異常表示灯を点灯させ、ブザー音を鳴らします。

また EM-D36 の表示切替ボタンを押すと、異常コードと異常を発生したパワーアンプのアドレス No. を液晶表示部に表示します。異常コードの内容については、下記の表を参照してください。



■ EM-D36 異常コード一覧

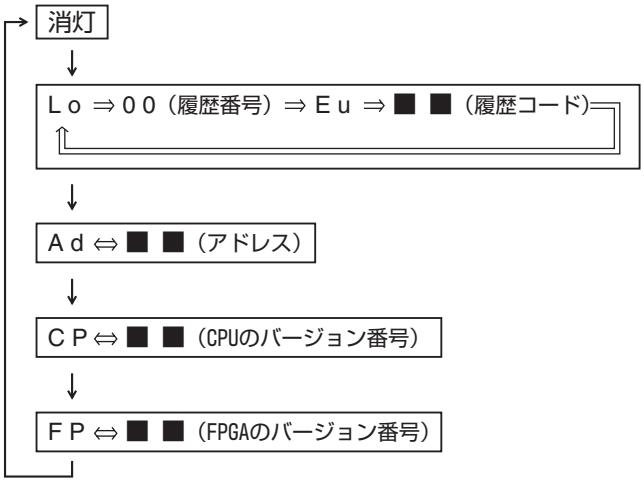
異常コード	項目	内容（原因）
00	通信異常	パワーアンプとの通信ができない。 【対応】CN-C27 の接続、およびパワーアンプのアドレス No. を確認してください。
□1	過電流	過大電流検出が働いた。
□2	出力レベル異常	出力レベル異常が発生した。
□3	超高音信号入力	超高音信号入力が連続的にあった。
□4	過大入力	過大入力が連続的にあった。
05	電源異常 1	内部 DC 電源（1、2 系統）の電圧が低下した。
06	電源異常 2	内部 DC 電源（3、4 系統）の電圧が低下した。
□7	出力停止	何らかの異常で出力を停止した。
08	システム異常	FPGA（制御用 IC）が停止した。
□A	IC 高温停止	電力増幅 IC が高温になり、自動的に停止した。

メモ：

- 「□」には異常が発生した系統番号が表示されます。
- EM-D36 を放送状態にしたあとパワーアンプの電源を入り / 切りすると、「00：通信異常」が表示されることがあります。
- 「00：通信異常」以外の対応方法については、「異常コードと関連動作」をご覧ください。(☞ 11 ページ)

履歴を確認する

モード切り換えボタンを押すと、状態表示灯に動作履歴やアドレスの設定値などを表示します。表示はモード切り換えボタンを押すごとに、「Lo → Ad → CP → FP → 消灯」の順に切り換わります。
「Lo」および「Ad」は、「Lo」または「Ad」の表示とデータを交互に表示します。「Lo」は過去の動作履歴を表し、発生の新しい順に履歴番号が付けられ、履歴番号と履歴コード（異常コードを含む）を交互に表示します。履歴番号を変えるには▲(進む)／▼(戻る)ボタンを押します。履歴は最大 100 件（履歴番号 00 ～ 99）まで記憶します。
「Ad」はアドレスの設定値、「CP」は本機内蔵の CPU のバージョン番号、「FP」は本機内蔵の FPGA (IC) のバージョン番号を表示します。（Ad、CP、FP はメンテナンス用として使用）



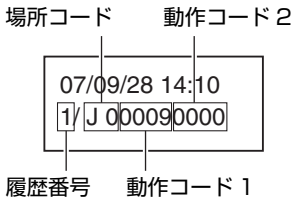
メモ：
- 表示は、⇒ または ⇔ が自動的に、↓はモード切り換えボタンにより切り換わります。
- 状態表示灯は、約 30 秒間操作を行わないと消灯します。

■ 履歴コード一覧

履歴コード	項目	内容（原因）
00	電源 ON	電源が入った。（1 回ごとに記憶します。）
□1	過電流	過大電流検出が働いた。
□2	出力レベル異常	誤接続などにより、出力レベルが異常になった。
□3	超高音信号入力	超高音信号入力（15 kHz 以上）が連続的にあった。
□4	過大入力	過大入力（定格 +3 dB 以上）が連続的にあった。
05	電源異常 1	内部 DC 電源（1、2 系統）の電圧が低下した。
06	電源異常 2	内部 DC 電源（3、4 系統）の電圧が低下した。（EM-A822D にはありません。）
□7	出力停止	何らかの異常で出力を停止した。
08	システム異常 1	FPGA（制御用 IC）が停止した。
09	システム異常 2	CPU が停止した。
□a	IC 高温停止	電力増幅 IC が 155 °C 以上になり、自動的に停止した。
□b	IC 高温警告	電力増幅 IC が 125 °C 以上になった。
0c	ファン作動	内部温度上昇によりファンが作動した。
0d	ファン異常停止	作動すべきファンが停止した。
0e	異常信号入力	CN-C7 で接続された他のアンプの異常信号を受信した。
0F	アドレス異常	アドレススイッチが 0 ～ 40 以外に設定されていた。

EM-D300 シリーズに接続したときの履歴確認

EM-D300 シリーズに接続して使用した場合、パワーアンプの異常履歴を EM-D36（業務操作器）の履歴情報メニューでも確認できます。操作方法については、EM-D300 シリーズ設置説明書の「20. 履歴情報の確認」をご覧ください。



■ EM-D36 異常履歴一覧

場所	項目	場所コード	動作コード 1	動作コード 2	備考	区分
パワーアンプ No. 1 ～ No. 30	通信異常	d0	0001 ～ 0030	0000	最大 30 台接続可	EM-D36 で検出
	過電流	d1 ～ d4	□ 101 ～□ 130	0000		パワーアンプで検出
	出力レベル異常	d1 ～ d4	□ 201 ～□ 230	0000		
	超高音信号入力	d1 ～ d4	□ 301 ～□ 330	0000		
	過大入力	d1 ～ d4	□ 401 ～□ 430	0000		
	電源異常 1	d0	0501 ～ 0530	0000		
	電源異常 2	d0	0601 ～ 0630	0000		
	出力停止	d1 ～ d4	□ 701 ～□ 730	0000		
	システム異常	d0	0801 ～ 0830	0000		
	IC 高温停止	d1 ～ d4	□ A01 ～□ A30	0000		
	IC 温度警告	d1 ～ d4	□ B01 ～□ B30	0000	履歴のみ	
	ファン作動	d0	□ C01 ～□ C30	0000	履歴のみ	
	ファン異常停止	d0	0D01 ～ 0D30	0000	履歴のみ	

メモ：

- 動作コード 1 の「□」には異常が発生した系統番号が表示され、下 2 桁には異常が発生したパワーアンプのアドレスが表示されます。
- 各項目の内容については、「EM-D36 異常コード一覧」(☞ 12 ページ) または「履歴コード一覧」(☞ 13 ページ) をご覧ください。

保証とアフターサービス

保証書の記載内容ご確認と保存について

この商品には保証書を別途添付しております。
保証書はお買い上げ販売店でお渡ししますので所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

保証期間について

保証期間は、お買い上げ日より 1 年間です。保証書の記載内容により、お買い上げ販売店が修理いたします。なお、修理保証以外の補償はいたしかねます。
故障その他による営業上の機会損失は補償致しません。その他詳細は保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

保証期間経過後の修理については、お買い上げ販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望ににより有料にて修理いたします。

アフターサービスについてのお問い合わせ先

アフターサービスについてのご不明な点はお買い上げ販売店、または別紙サービス窓口案内をご覧のうえ、最寄のサービス窓口にご相談ください。

修理を依頼されるときは

お買い上げ販売店、またはサービス窓口に次のことをお知らせください。

品名	：デジタルパワーアンプ
品番	：EM-A822D または EM-A842D
お買い上げ日	：
故障の状況	：故障の状態をできるだけ具体的に
ご住所	：
お名前	：
電話番号	：

商品廃棄について

この商品を廃棄する場合は、法令や地域の条例に従って適切に処理してください。

仕様

■ 一般

適合規格　：国土交通省（旧建設省）
公共建築工事標準仕様書

定格出力
EM-A822D ：80 W×2 チャンネル　総合 160 W
EM-A842D ：80 W×4 チャンネル　総合 320 W
並列接続により多様なシステムに対応

負荷インピーダンス：31 Ω（320 W の場合）、42 Ω（240 W の場合）、63 Ω（160 W の場合）、125 Ω（80 W の場合）

周波数特性　：100 Hz ～ 10 kHz　+1 dB ～ −2 dB（60 Hz　−3 dB ±2 dB、15 kHz　−2 dB ±2 dB 定格負荷時）

歪率 (1 kHz)　：1 %以下

入力レベル　：0 dBs（= 0.775 V）

入力インピーダンス：40 kΩ 以上（電子平衡）

信号対雑音比　：85 dB 以上（電力増幅器単体測定　JIS-A）

電源　：AC 100 V、50 Hz/60 Hz
DC 24 V（停電時、非常電源より供給を受ける）

消費電力
EM-A822D ：90 W（電気用品安全法）、254 W（定格出力時）
EM-A842D ：170 W（電気用品安全法）、512 W（定格出力時）

消費電流（DC 24 V）
EM-A822D ：3.3 A（第2シグナル音時平均電流）、9 A（定格出力時）
EM-A842D ：6.4 A（第2シグナル音時平均電流）、17 A（定格出力時）

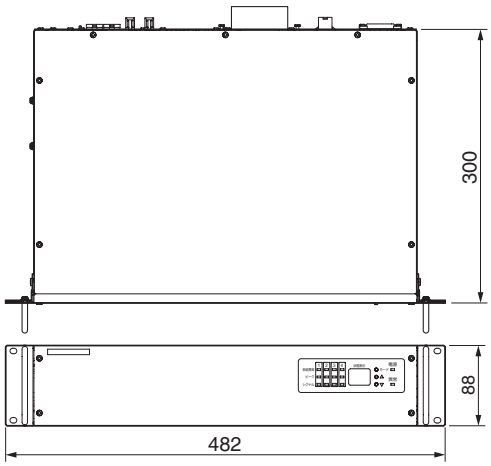
マウントサイズ　：EIA 2U、奥行き 300 mm（パネル面より）

質量
EM-A822D ：8.4 kg
EM-A842D ：11.6 kg

外形寸法　：482 mm×88 mm×300 mm（幅 × 高さ × 奥行き）（パネル面より）

仕上　：ライトグレー焼付塗装（マンセル 3Y6/0.6 近似、日塗工 DN-65（2007 年）近似）

■ 外形寸法図［単位：mm］



※ 上図は EM-A842D です。

■ 付属品・添付物

<EM-A822D>

取扱設置説明書 1
ラベル 1
保証書 1
ビクターサービス窓口案内 1
安全上のご注意 1
ラックマウント用ネジ（M5）. 4
棚板 2
棚板用取り付けネジ（M4）. 2
電源コード CN-P2 ～ 4 1
CN-C7 ケーブル（3 m）. 1
CN-C27 ケーブル（3 m）. 1
CN-P6、7 ケーブル（2.5 m）. 1
コネクター端子台（3P）CN-A8 4
パワーアンプコード CN-A1（白 1.5 m）. 2
パワーアンプコード CN-A1（黒 1.5 m）. 2
モニターコード CN-A1（白 2 m）. 2
モニターコード CN-A1（黒 2 m）. 2
アースワイヤー（緑 0.5 m）. 1

<EM-A842D>

取扱設置説明書 1
ラベル 1
保証書 1
ビクターサービス窓口案内 1
安全上のご注意 1
ラックマウント用ネジ（M5）. 4
棚板 2
棚板用取り付けネジ（M4）. 2
電源コード CN-P2 ～ 4 1
CN-C7 ケーブル（3 m）. 1
CN-C27 ケーブル（3 m）. 1
CN-P6、7 ケーブル（2.5 m）. 1
コネクター端子台（3P）CN-A8 8
パワーアンプコード CN-A1（白 1.5 m）. 4
パワーアンプコード CN-A1（黒 1.5 m）. 4
モニターコード CN-A1（白 2 m）. 4
モニターコード CN-A1（黒 2 m）. 4
アースワイヤー（緑 0.5 m）. 1

※ EM-A822D と EM-A842D に添付される電源コードは異なります。

※ 本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

EM-A822D/EM-A842D　デジタルパワーアンプ

お客様ご相談センター

0120－2828－17

携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は
電話(045)450-8950［代表］
FAX (045)450-2275
〒221-8528　横浜市神奈川区守屋町3-12

ご相談窓口におけるお客様の個人情報は、お問合せへの対応、修理およびその確認に使用し、適切に管理を行い、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。

ビクターホームページ http://www.victor.co.jp/

日本ビクター株式会社

〒192-8620　東京都八王子市石川町2969-2　　電話（042）660-7203

© 2008 Victor Company of Japan, Limited

LST0625-001B